



一般社団法人

AIガバナンス協会
AI Governance Association

【資料4－2】

一般社団法人AIガバナンス協会における AI事業者ガイドライン活用事例

一般社団法人AIガバナンス協会
業務執行理事 佐久間弘明

2026.02.16 Mon



自己紹介

佐久間 弘明

SAKUMA Hiroaki

一般社団法人AIガバナンス協会業務執行理事



- 経済産業省でAI・データに関する制度整備・運用に従事したのち、Bain & Company、Robust Intelligenceを経て現職。AIガバナンス協会では、AIガバナンスをめぐる標準策定や政策提言などを行う。組織のテクノロジーガバナンス構築支援、AI脅威インテリジェンス支援の実績を多く持つ
- 総務省AIネットワーク社会推進会議「AIガバナンス検討会」委員、内閣官房デジタル行財政改革会議事務局政策参与（データ利活用制度担当）なども務める
- 社会学の視点でAIリスク/テクノロジーリスクをめぐる言説の研究にも取り組む。修士（社会情報学）



AIGAのご紹介





一般社団法人
AIガバナンス協会
AI Governance Association

一般社団法人AIガバナンス協会は、AIに関わるあらゆるステークホルダーが集まるフォーラムとして、適切なリスク管理を通じてAIの価値を最大化する取組である「AIガバナンス」があたりまえのものとして定着した社会の実現をめざします。

一般社団法人AIガバナンス協会 = AIGAが重視する価値

イノベーションの促進

マルチステークホルダー
での信頼構築

社会的な価値の実現



正会員数は130社まで拡大

正会員社(和名五十音順)

*ロゴは2025年11月現在のHP掲載分。一部企業は未掲載。



金融

保険

通信

IT

グローバルテック

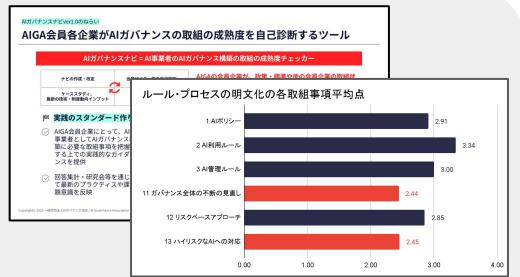
HR

製造

インフラ

ヘルスケア

AIガバナンス社会実装の民間のハブ・AIGAの特徴



AIガバナンスに特化した日本唯一の民間コンソーシアム

- 企業が前向きにAIを活用するための基盤としての、「攻めのAIガバナンス」のスタンダード形成
- 「AIガバナンスナビ」を基調とした、地に足のついた「社会実装」を強く意識した自主取組



諸業界のリーダーを含む充実した会員ネットワーク

- 金融、保険、通信、製造、IT、AI開発者……諸業界のトップ企業が集まり、多様な視点からAIガバナンスを検討
- 企業のAIガバナンス担当者や、政府会議等でも活躍する有識者会員が知見を交換する最先端のコミュニティ



グローバルな政策決定者やステークホルダーとの連携

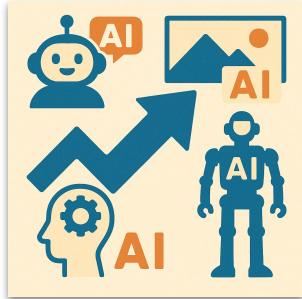
- 自民党、中央省庁、AISI、海外政府、他の関連団体といった多様な関係者との強力なコネクション
- パブリックコメント・政策提言を通じた政策形成への参加や、民間の実践知を生かした公的機関との連携



AIガバナンスナビについて

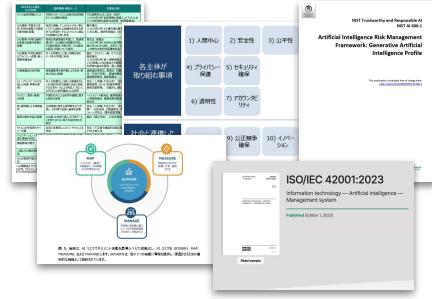


AIガバナンスを取り巻く課題に共有知で取り組む試みとしての「ナビ」



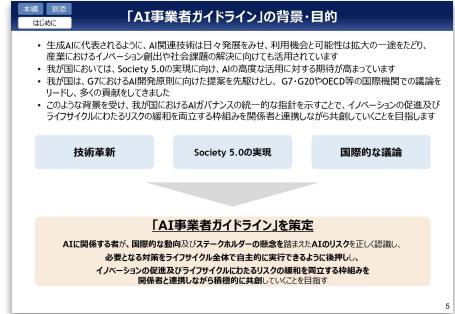
⌚ 激しい技術・制度の変化

ビジネスで実装される技術、制度、攻撃・防御手法の変化が激しいため、確立されたプラクティスに倣う手法が取りづらい



?] 規範・ガイダンスの乱立

策定主体、法的な効力、目的、スコープ、粒度の異なる多数のガイダンス・文書を総括して取組を方向づけるのは容易でない



▣ 企業の自主取組への期待

国内ではGLをベースに自主取組が期待され、ケーススタディ・実例に沿って取組内容・水準の具体化を進めていく必要性

AIガバナンスナビ = AI事業者のAIガバナンス構築の取組の成熟度チェック



AIガバナンスナビ: AIガバナンスの取組成熟度を自己診断するツール

AIガバナンスナビ = AI事業者のAIガバナンス構築の取組の成熟度チェックツール



AIGAの会員企業が、政策・標準や他の会員企業の取組状況をベンチマークとして、自社の組織としてのAIガバナンス構築の取組の成熟度を自己診断し、自社の取組の強み・弱みを把握できるようにするツール

実践のスタンダード作り

- Ⓐ AIGA会員企業にとって、AI事業者としてAIガバナンス構築に必要な取組事項を把握するまでの実践的なガイドンスを提供
- Ⓐ 回答集計・研究会等を通じて最新のプラクティスや課題意識を反映

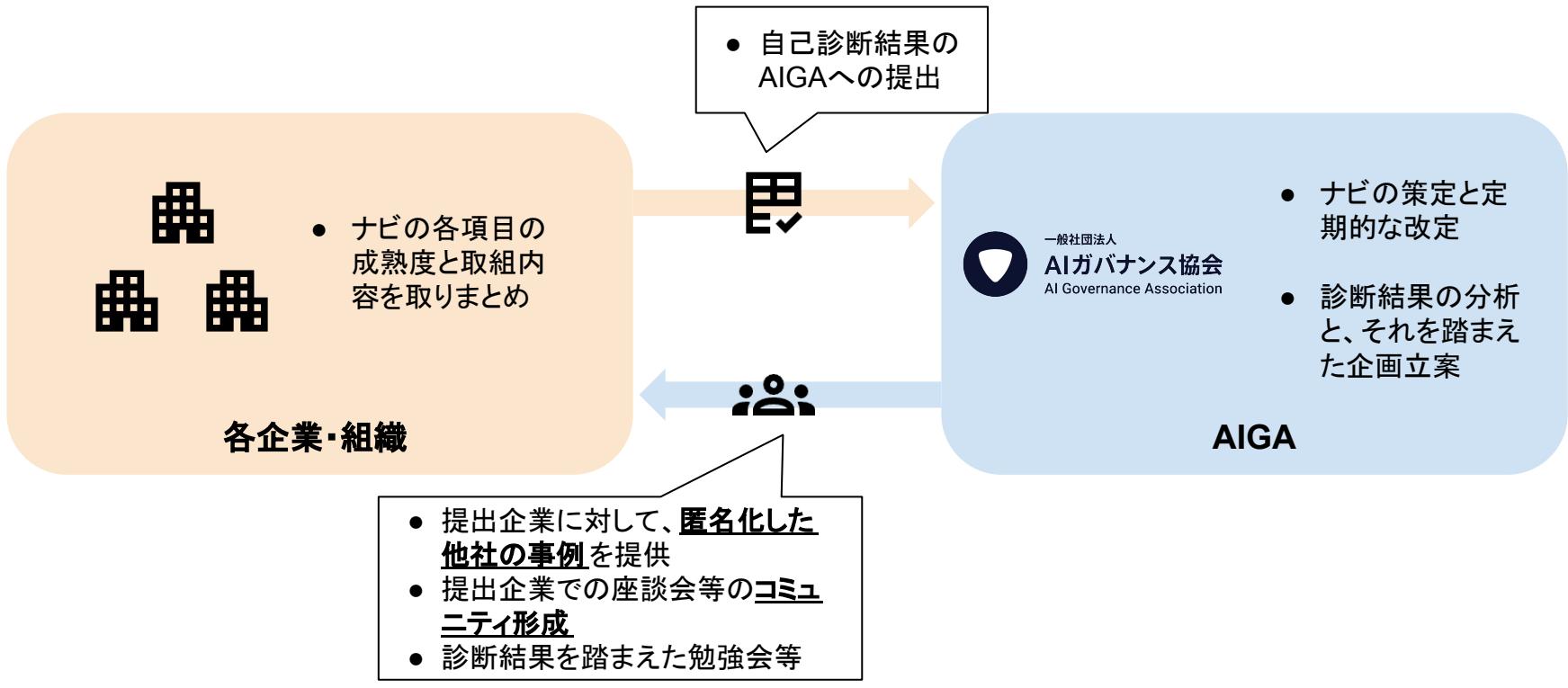
協会活動のペースメーカー

- Ⓐ AIGA会員で定期的に自己診断を実施し、諸産業全体としての進捗度を把握
- Ⓐ 項目別に自己診断の結果を分析し、全体の成熟度向上のためにフォーカスすべき議論・取組事項を特定

政策・標準との接続

- Ⓐ AI事業者ガイドライン等への対応関係を明確にし、企業の取組の政策への準拠を支援
- Ⓐ 対外的な観点で、AIGA会員全般の政策への対応状況を把握・発信

参考（イメージ）：各企業の取組を集合知化し、全体の取組を後押し



国内外の政策・標準を参照し5つの取組領域、全36の取組項目を整理

全社・組織としての対応を要する項目		ユースケースに応じて内容が変化する項目		全社・組織としての対応を要する項目	
区分分類	ルール・プロセスの明文化 (6)	周知徹底・人材育成 (5)	組織体制整備 (5)	各リスク領域への対策 (10)	透明性・アカウンタビリティ確保 (10)
ver1.0 での 取組 項目	1 AIポリシー 2 AI利用ルール 3 AI管理ルール 11 ガバナンス全体の不断の見直し 12 リスクベースアプローチ 13 ハイリスクなAIへの対応	4 AIユースケースの把握・整理 5 社内ルールの浸透 34 活用段階に応じた人材要件の定義 35 AIリスクについての周知徹底 36 AIリスク管理を担う人材の育成	6 経営層のオーナーシップと役割分担の明確化 7 AIガバナンス構築の戦略的位置付け 8 関連領域の知見の集積・交流 9 社内における客観的な視点の確保 10 インシデント発生時の対応フローの確立	14 個人情報・個人データの適正な取得 15 個人情報・個人データの適正な利用 16 データ取得における知的財産権の尊重 17 AIの利用における知的財産権の尊重 18 AIの設計における人間との相互作用のあり方、多様性・包摶性の考慮 19 AIの精度低下や出力の誤りへの対策 20 AIのバイアス・倫理的に問題のある出力への対策 21 AIの悪用への技術的対策 22 AIに対する攻撃への技術的対策 23 AIの悪用や攻撃へのルール設計による対策	24 繙続的なリスク管理 25 組織やルールに対する外部の視点からの検証 26 第三者による技術面のリスク検証 27 ステークホルダーとの対話 28 バリューチェーン全体でのガバナンス実現 29 透明性の確保 30 アカウンタビリティの確保 31 監査可能性の確保 32 データのトレーサビリティの確保 33 環境・持続可能性への影響の考慮

取組項目レベルで主要なガイドライン類の要素を幅広くカバー

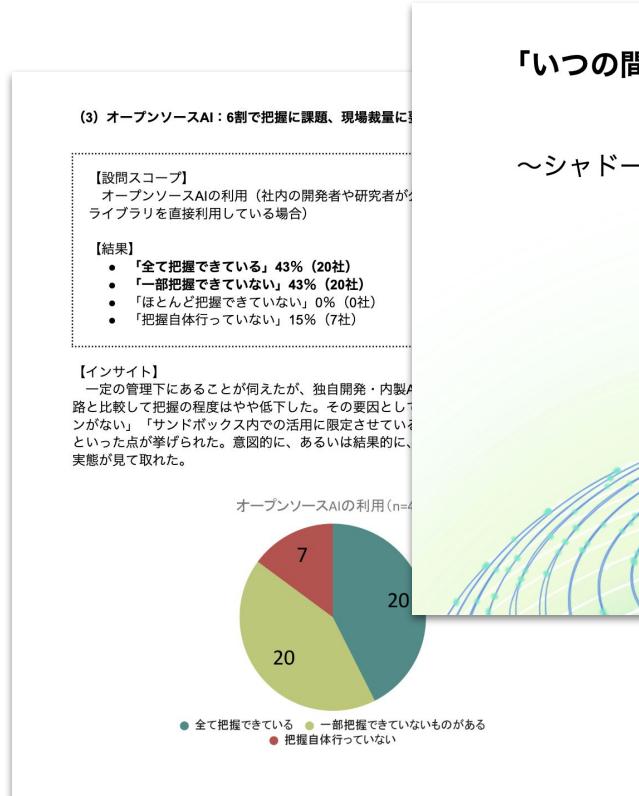
画像出典) 総務省「AI事業者ガイドライン(第1.0版)」|本編(概要)

画像出典) AISI AI RMF (日本語翻訳版)

画像出典) ISO/IEC 42001:2023

ナビの結果を踏まえた深掘りの実態調査例: 「いつの間にか」AI実態調査

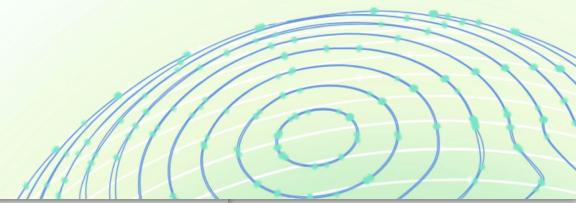
- AIガバナンス先進企業の課題として想定される、「AIユースケースの捕捉」(シャドーAIの防止)についての調査レポート(2026/01/29公表)
- 既存システムへのAI機能の追加、従業員の個人利用、そして外部パートナーをはじめとするサプライチェーン経由での侵入等、ルートごとのAI利用状況の捕捉状況と、管理のための取組事例を明らかに



「いつの間にか」AIの リスク実態調査

～シャドーAI等の管理と捕捉
課題とプラクティス～

一般社団法人AIガバナンス協会
2026年01月29日

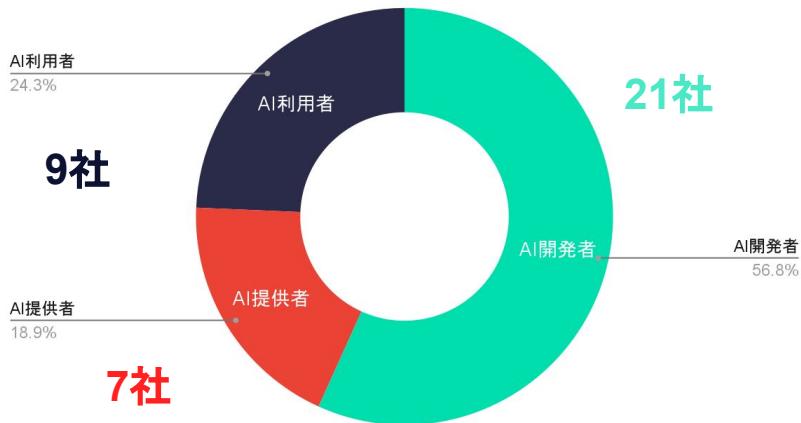


参考: 2025年9月の自己診断結果



2025年9月: AIGA正会員から、各業界を代表する企業が自己診断に参加

回答者のAIバリューチェーン上の属性(複数回答可)



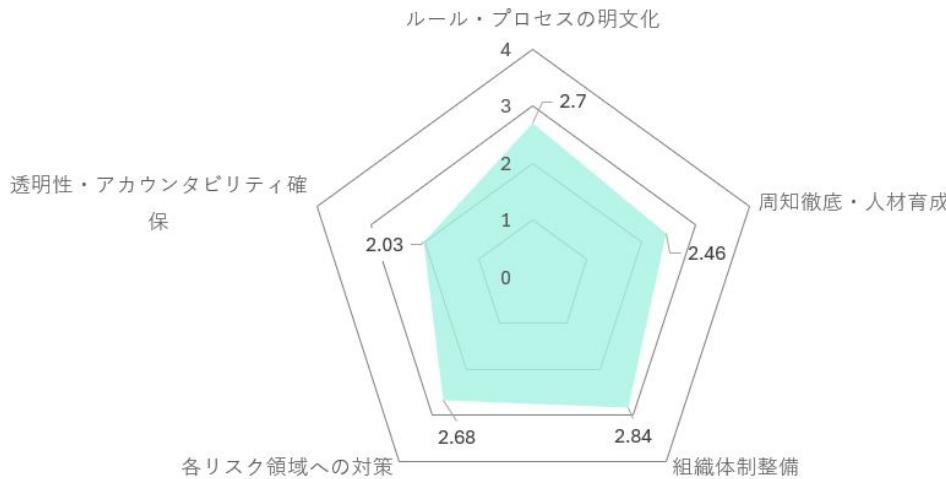
※複数選択した企業は、開発者、提供者、利用者の順で優先して分類

- 開発・提供・利用それぞれの立場から計37の回答が集まっている
- 業界としても、IT・通信・保険・証券・銀行・インフラ・製造など多様
- 37社/37社が生成AIを利用したユースケースを保有している
- 出力結果が人によるチェック・修正を経ずに社外に表示・提供されるAIのユースケースがある企業は9社

個人情報関連など既存ルールの応用は進んでいるが、AI特有の継続的な管理はまだ道半ば

全体平均: **2.50点**

ver1.1自己診断企業の領域別平均点



- 得点分布の大きな傾向はver1.0から変わらない
- 今回から新規で診断に参加した企業も既存の統制プロセスを活用し、AIにも応用していると考えられる。
- AI・生成AIの継続的な管理、ハイリスクな業務での活用は道半ばであり、ユースケースの成熟とともに各企業に求められる対策が具体化され、低得点領域の取組も進むと考えられる

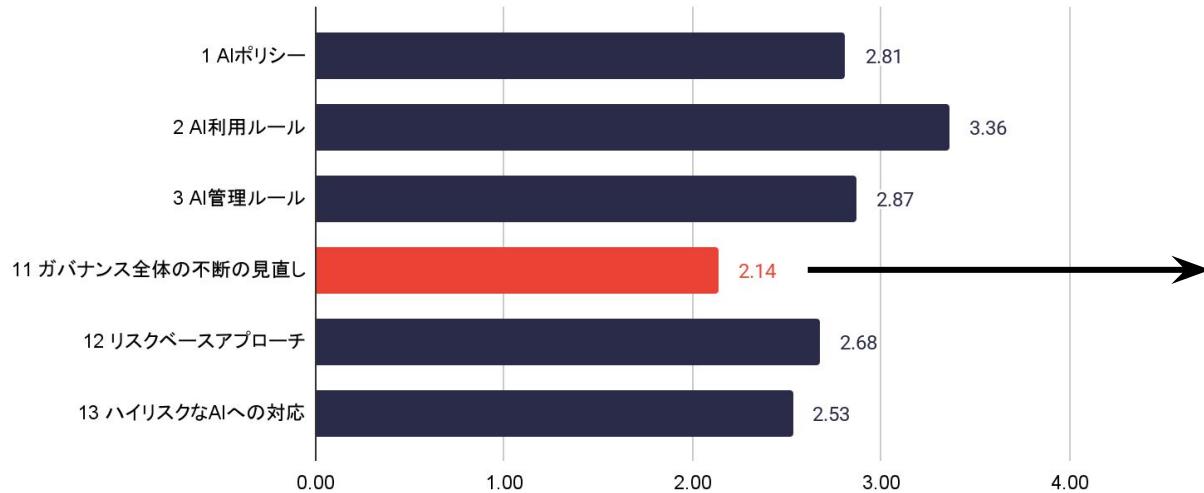
AIの利用に向けたルール作りは進んでいるが、技術・制度動向を踏まえた見直し・更新は今後進展の余地あり

平均2.5点以上

平均2.5点未満

取組例（匿名）

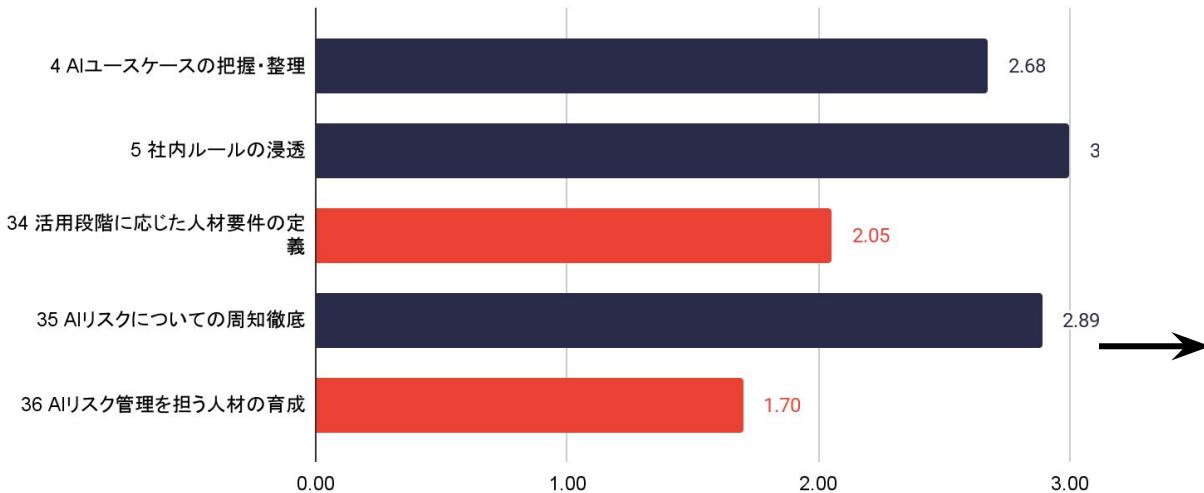
ルール・プロセスの明文化の各取組事項平均点



“社内のAIガバナンス担当部署が、外部動向や、その他最新の制度動向やインシデント事例の情報収集を行い、リスク定義や分類の見直しを行っている”

策定したルールの浸透や研修等での周知徹底は広く行われている ガバナンスに必要なスキルの明文化・育成は検討途上の企業多数

周知徹底・人材育成の各取組事項平均点



取組例（匿名）

“研修や情報共有等を通じて各人材がスキル獲得を推進できる環境の整備は進めているものの、AIとの関与の仕方によって人材の要件を定義するまでには至っていない”

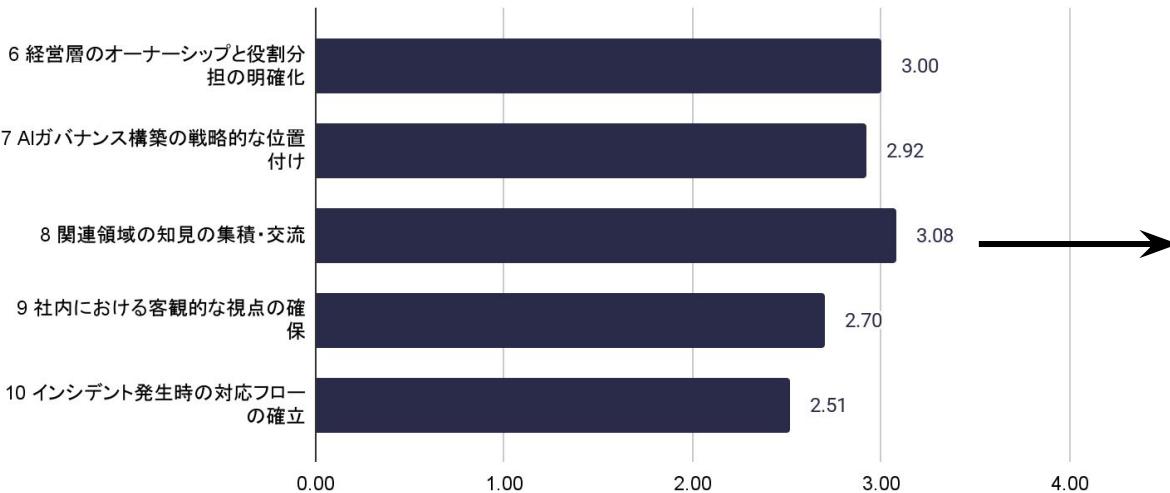
“人事部門も関与の上で人員の増強計画やリソース確保の方針の共有等を通じて人材の育成・確保の課題に組織的に取り組んでいる”

責任者の明確化といった組織体制整備については、多くの企業で達成 AI特有のインシデント対応フローの要否は検討・整理中のケース多数

平均 2.5 点以上
平均 2.5 点未満

取組例（匿名）

組織体制整備の各取組事項平均点



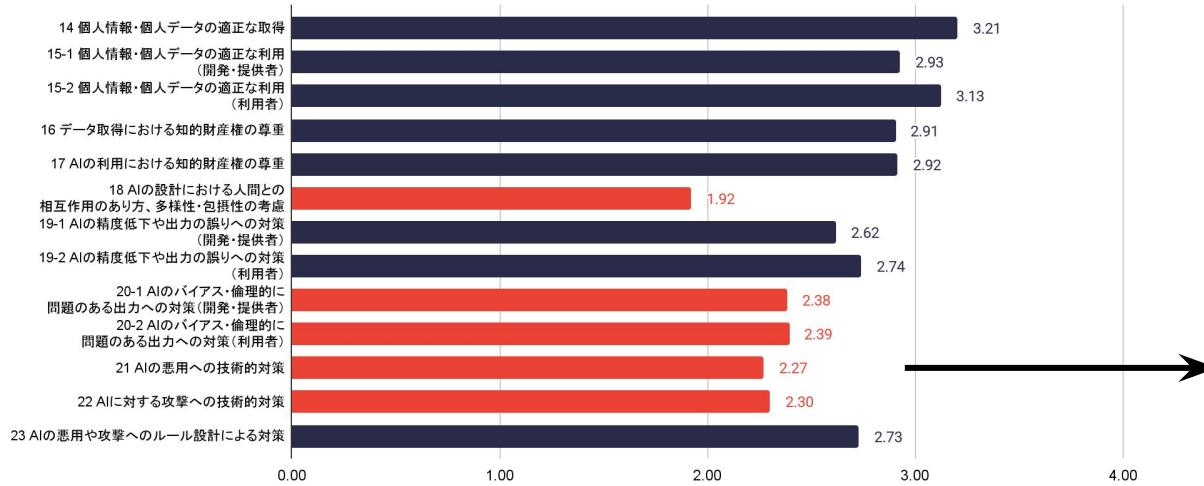
“生成AI活用の取組プロジェクトを本部内で立ち上げ、外部パートナーと一緒に、議論の場を設けている”

個人情報や著作権等法に規定されている項目については一定の整理・対策が進んでいるが、AIの悪用・攻撃への技術的対策は道半ば

平均2.5点以上
平均2.5点未満

取組例（匿名）

各リスク領域への対策の各取組事項平均点

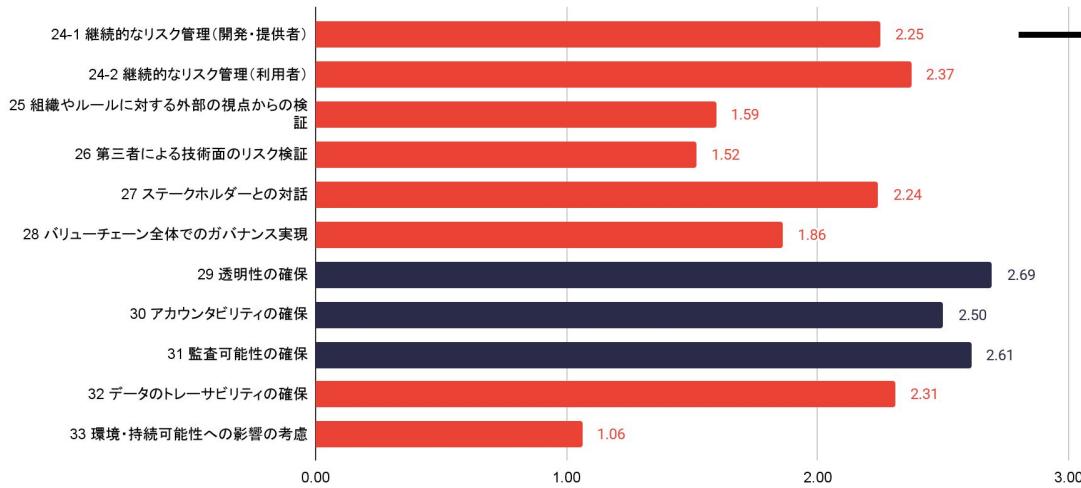


“自社のAIモデル・サービスが悪用される可能性のあるシナリオを想定し、ディープフェイクの生成、誤情報の拡散、犯罪行為に用いられるかどうか、用いられてしまう場合のシナリオを想定し、問題のある入出力のパターンに対して検知できるフィルタリングツールの実装に向けた検討・協議を行っている”

第三者検証などの構造的な信頼性確保策や、AI利用者にとってのバリューチェーン全体を意識したガバナンスの実現に課題感

平均2.5点以上
平均2.5点未満

透明性・アカウンタビリティ確保の各取組事項平均点



取組例(匿名)

“運用開始後も顧客および自社内でログを確認できるプロセスとなっており、顧客と定期的に運用状況を議論する場をもっている。”

“現時点では、AIシステムの企画、稼働前段階のリスク評価にとどまっている。運用開始後の定期的なリスク検証と対策検討については、運用を検討中。”



一般社団法人
AIガバナンス協会
AI Governance Association